

「食と農」をテーマに、

とことん学び、議論し、

交流する4日間

その思想と社会的課題、先端テクノロジーを学ぶ

食べることは生きることの基本であり、農業は社会の基盤となる最重要産業です。土地も資源も有限の地球上の人口が今世紀の後半には100億人に達するとも言われる中、安定して持続可能な食糧の供給は人類にとって最大の課題の一つです。この課題を解決するためには、バイオテクノロジーやロボティクス・情報技術などを駆使した食糧生産技術の発達はもちろん、農地の拡大による生態系や地球環境への影響、政治経済や消費者心理など、様々な専門領域にまたがる知見を結集させなくてはなりません。また、人にとっての食と農の意味は、単なる生命活動の維持に留まりません。それは人と人とのコミュニケーションを媒介し、豊かな文化を育み、風景や環境を形づけてきました。本講座では、食と農に関わる最先端且つ革新的な研究と科学技術から、その技術を応用したビジネス、また、食の安全保障や食品リスク認知などの社会的課題、そして文化や哲学に至るまで、多様な分野の識者から食と農の歴史と現在について学び、未来について考えます。

京大研究者・京大生が選ぶ
今面白い!!

「食と農」

注目の研究者5人!!

インタビュー冊子付き

日程 [2022年]

Day 1 ▶▶ 2月4日 (金)

Day 2 ▶▶ 2月5日 (土)

Day 3 ▶▶ 2月12日 (土)

Day 4 ▶▶ 2月13日 (日)

申込みは
こちらから ▶▶▶
京都大学ELP
ホームページ内より
必要事項を記入の上
お申し込みください。



<https://www.elp.kyoto-u.ac.jp/intensive/2021/>

京都大学ELP

短期集中講座

詳細裏面へ

ELP Intensive Course

京都大学エグゼクティブ・リーダーシップ・プログラム

Food and Agriculture

食と農



食と農

食と農が抱える社会的課題、
最先端の研究と技術、
そのビジネスへの応用、
そしてこれからの食と農はどうあるべきか、
分野をリードする研究者を迎え、
全国から集まる受講生と共に学び、考え、
熱い議論を交わします。

募集概要

全日程に参加いただけます。

日程 1日目 2022年2月4日(金) 9:30~20:30
2日目 2022年2月5日(土) 9:30~17:50
3日目 2022年2月12日(土) 9:30~19:30
4日目 2022年2月13日(日) 9:30~18:00

場所 1日目 / 2日目 京都大学 芝蘭会館山内ホール
京都府京都市左京区吉田近衛町
3日目 / 4日目 京都大学 時計台国際交流ホール
京都府京都市左京区吉田本町
京都大学 百周年時計台記念館内

定員 30名(定員に達し次第締め切り)

特典 京大研究者・京大生が選ぶ今面白い「食と農」
注目の研究者5人!! インタビュー冊子付き

受講料 50万円(税込)テキスト、ランチ代、パーティ代含む
※ 受講料には交通費、宿泊費は含まれておりません。
※ お申し込み後に請求書を送りますので指定の口座にお振込みください。
手数料は自己負担でお願いします。
※ 同一企業からの複数参加の場合割引があります。

申込締切 2022年1月11日(火)

対象 興味のある方はどなたでもご参加いただけます

キャンセル規定

お客様のご都合により、お申し込み後キャンセルされる場合には
下記のとおりキャンセル料を申し受けます。何卒ご了承くださいませ。

- (1) 開講日の7日前から前々日 受講料の30%
- (2) 開講日の前日から当日 受講料の100%

お問い合わせ先 京都大学ELP 事務局

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町1 京都大学 橋会館内

TEL 075-753-5158

MAIL info@elp.kyoto-u.ac.jp

本講座の詳細をホームページでも公開しています。
インターネットで「京都大学 ELP」で検索してください。

Day1 2022/2/4/Fri 人類にとっての食



この集中講義に対する
学びへの構え
導入ワークショップ

京都大学学際融合
教育研究推進センター
准教授 宮野公樹



何を食べるかが未来を創る
食農をめぐる環境変化と
私たちの選択

京都大学大学院農学研究所
生物資源経済学専攻
教授 秋津元輝



ベジタリアニズムは世界を
救ってきたか?
日本とインドの
食と職の歴史に学ぶ

東京大学大学院農学生命科学研究科
准教授 戸石七生



台所から現代史を考える
「ススと煙の台所」から
「電気とガスの台所」へ

京都大学人文科学研究所
准教授 藤原辰史

[夜の部]

研究者・受講生との交流会
ホテルオークラ京都



Day2 2022/2/5/Sat 食の安全保障/食と農のテクノロジー1



農業・食料のグローバル
ガバナンス

持続可能な食農システムへの
転換をめぐる世界の動向

京都大学大学院経済学研究科
教授 久野秀二



ロボット農機とスマート農業
データに基づく効率的な
低環境負荷型農業を目指して

京都大学大学院農学研究所
地域環境科学専攻
教授 飯田訓久



発酵醸造と食と腸内細菌

微生物と食の関係性から
未来の食を考える

京都大学大学院農学研究所
応用生命科学専攻
教授 小川順



Day3 2022/2/12/Sat 食と農のテクノロジー2



技術開発と事業開発の関係
技術を突き詰めるだけでは
事業は生まれにくい

株式会社ちとせ研究所 代表取締役
内閣官房 バイオ戦略 有識者
京都大学産官学連携本部
特任教授 藤田朋宏



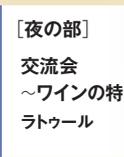
加速するフードテックの潮流
テクノロジーとの融合で
食の社会課題解決を目指す

株式会社東レ 経営研究所
研究員 川野茉莉子



ワインという飲み物
ワインビジネスの現状と
ブドウ・ワイン研究

京都大学
名誉教授 小田滋晃



[夜の部]

交流会
~ワインの特質に出会う~
ラトゥール



Day4 2022/2/13/Sun 食と農の未来



持続可能なフードシステムと
消費者行動
消費行動・経営行動の向かうところ

京都大学大学院農学研究所
生物資源経済学専攻
講師 鬼頭弥生



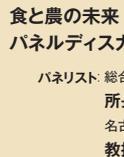
食をめぐる新たな技術と
市民の役割
人新世における食を考える

名古屋大学大学院環境学研究所
教授 立川雅司



新たな食と農による
社交を考える
コミュニケーションの進化と
コロナ後の世界

総合地球環境学研究所
所長 山極壽一



食と農の未来
パネルディスカッション

パネリスト: 総合地球環境学研究所

所長 山極壽一

名古屋大学大学院環境学研究所

教授 立川雅司

京都大学大学院農学研究所生物資源経済学専攻

講師 鬼頭弥生

日本たばこ産業株式会社 D-Labディレクター

株式会社グローカリンク

取締役 西川信太郎

ファシリテーター: 京都大学大学院農学研究所

応用生命科学専攻

助教 白石晃将

左 西川信太郎
右 白石晃将

